

罫線内は令和4年度学校経営計画の要点

## 1 今年度の取組と自己評価

### (1)教育活動への取組と自己評価

#### ①【教科活動】主体的学習姿勢の醸成

- ・チャーム始業、授業規律確保、ICTを活用した授業、家庭学習の増加等による学習に向かう姿勢の確立と受験を意識した授業の実践
- ・国・数・英における少人数授業・習熟度別授業の実施によるきめ細かな指導の実践と進路希望に合わせた授業配置
- ・主体的・対話的で深い学びを実現させる授業の実践

研究授業、相互授業参観、教科会等を通して計画的な授業実践の検討を行い授業力の向上を図るとともに授業改善に取り組んだ。Classi、YouTube、Teams等を活用した教材及び教授法を研究し自宅学習に対応した。

自宅学習時間調査を年間5回実施し、結果をグラフ化して教室に掲示するなどにより意識啓発を行った。昨年度に比べ1年次は減少傾向、2年次では増加傾向が見られた。定期考査の前後で自宅学習時間が大きく変動するため、比較しやすい時期に計画的に調査を行うことが課題である。

#### ②【生活指導】TPOをわきまえる力と社会性の育成

- ・コロナ禍の影響を踏まえた生徒理解と特別支援教育への理解に基づく相談しやすい体制づくり
- ・挨拶の励行、校内美化、時間厳守の徹底
- ・一人一台端末とデジタル技術の活用及びSNS利用の指導、思いやりの心や人権意識、道徳心、公共の精神を高める指導による豊かな人間性の育成

校門での挨拶運動や日常生活を通して挨拶、遅刻、服装等の指導を実施した。時差登校の朝の時間を活用して読書活動を行い、豊かな人間性に資するとともに遅刻者を減らす取組につなげることができた。主な行事を復活させ実施することができたが、昼食時などの日常のコミュニケーションが抑制されるなどにより人間関係を始めとする悩み等によりストレスを抱える生徒も少なくなかった。日常的な打ち合わせや年次会に加えて教育相談委員会を週時程内に位置付け、SCを含めて生徒情報を共有して組織的な対応を行った。

#### ③【進路指導】進路挑戦力の醸成

- ・3年間を見据え各年次に応じた継続的・段階的進路指導の推進
- ・総合的な探求の時間(ブリッジ)による主体的な進路活動、自己理解、自己実現、高い進路意識の促進
- ・模試結果、入試問題の分析・検討と多様化した入試制度に対応した進路資料の活用による進路挑戦力の育成
- ・図書館の活用と情報教育の推進による知的探求心及び情報探索能力の向上

1年次、2年次からの系統的な進路指導を行うとともに、3年次生には進路部や教科担当者を中心に面接、論文指導等を行い、進路挑戦力を養う指導を丁寧に行った。受験生全員に対して能力や適性に応じて進路に挑戦させる個別に助言をするとともに、「勉強部」において外部講師による土曜講習を行った。

共通テスト受検者は137名で、コロナ禍で大幅に減少した過去2年間とほぼ同じであった。が、GMARCH現役合格者が27名であった昨年から概ね半減するなど、大学合格は厳しい結果となった。

大学入試改革とコロナ対応等により入試制度が複雑化していることから、情報収集と指導への活用を図り、意欲的に挑戦させる指導を進路部と年次が協力して行うことが課題である。

#### ④【特別活動・部活動】文武両道の実践

- ・感染症対策を踏まえた学校行事の検討と特別活動の活性化、生徒の自治自立の精神の養成
- ・部活動の活性化とともに体罰等の根絶
- ・学習と部活動の両立の支援による文武両道の実践

合唱祭や宿泊行事を始めとする主な行事を3年ぶりに実施することができた。合唱祭、上水祭、体育祭は生徒の実行委員会が中心となって企画、運営するが、3年前の行事を経験している生徒がいらないことから、資料等を基に一から計画する必要があったが、生徒が主体的に活動し実施することができた。また、部活動においては活動が制限されながらも、放送部が全国大会出場、陸上部、女子バスケットボール部、放送部が関東大会

出場を決めた。

部活動指導員配置の予算が限られる中、技術指導ができる指導者の確保が重大な課題である。

#### ⑤【開かれた学校づくり】上水高校認知度・好感度のUP

- ・教育理念や特色を広く発信し広報活動の充実を図る
- ・ホームページの充実、学校案内、学校見学、授業体験、部活動体験、出前授業等を実施
- ・地域や中学校・大学との連携、学校開放事業等による地域貢献等による地域に根ざした地域から信頼を得る学校の実現

新型コロナウイルス対策を講じつつ学校説明会や学校見学、部活動体験等を行った。学校説明会や見学会は人数を制限して実施したが、昨年度に続いて個別相談会を実施したほか、ホームページのリニューアルを行い、ホームページの更新回数、アクセス件数ともに前年から大きく増加した。

学校評価アンケートからはあいさつ、時間や規則を守ること、服装や髪型についての指導が生徒や保護者にも理解されており、復活した行事が充実していたという肯定的意見が多かった。

また、地域の方を対象とした公開講座や生徒がボランティア参加する地域行事も3年ぶりの実施となりコロナ以前の活動が戻ってきた。

入試倍率は昨年と比べてやや減少したが、推薦、学力選抜ともに全日制普通科単位制高校の平均値とほぼ同じ倍率であった。

#### ⑥(健康づくり・環境づくり・防災教育)教育環境の整備

- ・校内美化の徹底、潤いのある環境づくりと安全で快適な学習環境の提供
- ・学校保健計画に基づき心と体の健康づくりの推進と気力・体力の向上、感染症への正しい対処
- ・組織的な教育相談等の充実と情報共有による思いやりの心の育成及び心の悩みへの早期対応、いじめや自殺の防止及び早期発見
- ・地域と連携した防災訓練や避難訓練の実施による防災教育の推進と充実

引き続きゴミ箱の削減を継続し感染症対策と美化意識の向上を図った。

通常の学校生活を制限される環境にあつて昨年に続いて生徒の心の悩みの深化がみられた。教育相談委員会を週時程内に位置付け、カウンセラーと保健部、年次担任の連携・協力体制の綿密化に努め、生徒理解、生徒情報の共有を図った。

避難訓練は避難確認未了者が出たことを想定するなど工夫して実施した。地域と連携した防災訓練や避難訓練の更なる工夫による実践的な防災教育の充実が今後の課題である。

#### ⑦【経営企画室】

- ・経営企画室からの提案等の具現化による経営企画室の学校経営参画の推進
- ・施設設備の点検・管理や迅速な修繕等をとおしての安全確保、環境整備、校内美化の推進
- ・適正な予算の編成と執行、会計管理
- ・迅速、正確かつ効率的な業務遂行により事故のない学校経営に資する

経営企画室内の人員構成に変更があり担当業務の変更や臨機応変な対応が必要となる中で、通常業務をミスなく遂行するとともに、行事変更などに対応した予算の編成など、新型コロナウイルス対策に関わる様々な対応を提案、実行した。引き続き正確な書類作成、点検などの徹底を図っていく。

#### ⑧【学校運営・組織体制】組織体制、実践取り組みの継続と発展

- ・企画調整会議と各部会、経営企画室との連携による全教職員が関わる学校経営
- ・大学入試改革、学習指導要領改訂に対応したカリキュラム、学校行事の実践
- ・個人情報の適切な管理、体罰の根絶とサービス事故の未然防止の徹底
- ・効率的な職務遂行等による勤務時間外在校等時間の縮減、ライフ・ワーク・バランスを意識した働き方改革の推進
- ・図書館専門員との連携と組織的な図書館運営
- ・SNSやICT機器及び新たなシステム等の活用促進
- ・円滑に業務遂行できる風通しのよい職場環境の構築

大学入試改革、学習指導要領改訂、感染症対策、庶務事務や成績管理及び入選等の新しいシステム、1人一台端末など、今までにない変革が一時期に集中したことから対応に追われた。サービス事故防止に向けて個人情報の取扱いを始めとして日常的に注意喚起し、サービス事故の発生は防止することができた。しかし事故になりかねない事例も複数起きており、引き続き事故防止への継続した取り組みが課題である。

円滑に業務遂行できる風通しのよい職場環境の構築のため、日頃より情報を共有し組織的に対応していく取組も継続的に進めていく必要がある。

### ⑨【特色ある学校づくり】

- ・行事や検定試験等の活用による国際理解教育の推進と英語コミュニケーション能力の育成
- ・高大連携やオープンキャンパスの活用、進路意識の向上と進路挑戦力の育成
- ・学校設定教科「表現」の充実・改善による表現力の育成
- ・思いやりの心と豊かな人間性の育成及び人権教育の推進
- ・学習と部活動、学校行事の両立

1年次生のアメリカン・サマー・キャンプ、2年次生の進路探索研修旅行、学校設定教科「表現」の発表会など、3年ぶりに特色ある行事を実施することができた。次年度は開校20年を迎えるが、宿泊行事のあり方について継続して検討していく必要がある。

開校当初からの特色となっている気持ちの良い挨拶をする生徒がやや減少傾向にあり、教職員、生徒ともに気持ちよく挨拶できる校風を維持していく必要がある。

## (2) 重点目標への取組と数値目標に対する自己評価

### ①教員の授業力と生徒の学習意欲の向上

- ・授業公開日等における相互授業参観（全教員が他の授業を参観）
- ・家庭学習時間（前年度の自宅学習時間を上回る）
- ・生徒の授業満足度（前年度の満足度を上回る）

○新型コロナウイルス対策のため授業公開週間は実施できず、他校指導教諭の研究授業参観も実現が難しかったが、校内での呼びかけや報告書提出の新たな工夫等により、ほとんどの教員が他の教員の授業を参観した。

○昨年度は毎月に近い回数を実施したが、今年度は年間5回実施した。年度前半においては前年比で1年生は減少、2年生は増加、3年生はほぼ同程度という傾向であった。定期考査前後の時期を避けるなど、より年毎や月毎の比較ができる時期に計画的に行うことが課題である。

○生徒による授業評価は11月に実施した。6教科の平均で「分かりやすく教えてくれ考えさせてくれる」と「興味関心を持たせてくれ意欲、関心をわかせてくれる」の肯定的回答が昨年度それぞれ約3ポイント上がったが、今年度はそれぞれ約3ポイント下がり、84%と81%であった。感染症対策による時差通学を行ったために昨年度に引き続き短縮40分授業を行っていたが、東京都教育委員会の方針変更に伴い1月からは通常の45分授業に戻した。

### ②夢をもち進路希望を高く掲げる進路への挑戦力の向上

- ・現役進路決定率（90%以上）
- ・国公立、難関・有名私大合格者（国公立、早慶上理GMARCHに現役で30人以上）

○現役進路決定率は、3月中旬現在で84.4%であり目標を達成した昨年同時期に比べ4ポイント程度高い。

○現役の国公立、早慶上理GMARCH大学合格者数は、3月13日現在で19名であり、目標を達成した昨年同時期に比べ13名少ない。

### ③礼節、心身の健康、思いやりの気持ち、コミュニケーション能力の向上

- ・遅刻者の減少（年間遅刻回数930回以下）
- ・欠席者の減少（年間皆勤生徒数合計220名以上）

○年間の全校生徒の延べ遅刻回数は503回であり、目標を超過し949回であった昨年度に比べ大幅に減少した。理由としては、始業前に読書活動を実施したこと、昨年までは年次により遅刻者の数に差が大きかったことなどが考えられる。繰り返して遅刻をする生徒もおり、今後も遅刻数を増やさない取組とともに遅刻の回数が多い生徒への対応が課題である。

○年間の皆勤者数は3月中旬現在において218名であり目標を達成できなかった。

### ④文武両道の実践と部活動の推進

- ・都大会ベスト16以上、関東大会出場、全国大会出場（7部以上）

○感染症対策により満足な活動ができない中においても、全国大会や関東大会に連続出場している放送部、陸上競技部を始め、新たに関東大会出場を決めた女子バスケットボール部などを中心として、熱心に活動し活躍している生徒が多くいる。都大会ベスト16以上は合計6部であり目標には達しなかった。

### ⑤広報活動の充実

- ・SNSを活用した広報活動（ホームページ更新 計200回以上）

- ・学校見学会、学校説明会、授業・部活動体験等での中学生及びその保護者来校者数  
(1, 700名以上)
- ・入学者選抜倍率 (推薦3.2倍、一次1.4倍)

- ホームページを新たなシステムでリニューアルしページの更新回数は336回を数え目標を大きく上回った。
- 学校説明会や学校見学会は事前申込制で人数を制限しての実施となり、直ぐに予約が埋まってしまう状況であった。来校者数は昨年の約1,650名から増加して約1,700名で目標を達成した。しかし入試倍率は推薦が2.8倍、一次学力選抜が1.3倍となり、共に目標には達しなかった。

- ⑥サービス事故の防止
- ・サービス事故発生件数 (0件)

- サービス事故の件数としては0件であり目標を達成した。しかしサービス事故になりかねない事案も起きており、個人情報情報の取扱いのみならず、自らの業務改善を確実に実行できるよう引き続き事故防止のための意識向上、業務改善を徹底していくことが必要である。

- ⑦職員の働き方改革
- ・職員の勤務時間外在校時間の縮減 (総時間で前年を下回る)

- 新型コロナウイルス感染症対策により、短縮時程による授業が続き、授業準備や課題作成等に工夫が必要であった。3年ぶりに実施された各種行事の準備、生徒指導や年に3回の生徒との面談など様々な業務の対応により在校時間が増加する傾向にあった。しかし、昨年度とウイルス対策の対応が異なることから比較は難しいものの、2月までの比較では、前年比99%で目標を達成している。

## 2 来年度以降の課題と対応策

- (1) 開校20周年を迎えるに当たり、本校の指導方針や特色等の共通理解を再確認し、現在の上水高校に求められているニーズに対応し行事の在り方を検討するとともに、新学習指導要領、大学入試改革に対応した指導を実践していく。
- (2) 各教科による授業改善のOJTを継続させ、主体的、対話的で深い学びを実現する授業改善を継続的に行う。
- (3) オンライン授業の実践を通して感染拡大による自宅学習に備えるとともに、生徒一人1台端末の活用を踏まえたICT機器やOffice365の効果的な活用を中・長期的に計画し新しい授業形態を構築する。
- (4) 長期休業中の講習や土曜講習を充実させ、引き続き必要な予算措置を行う。
- (5) 学校説明会、学校見学、ホームページ等の充実や母校訪問の復活を図るなど、広報活動を組織的、効果的に推進する。
- (6) 挨拶の励行、表現力の育成、国際理解教育、進学特活型等の本校の特色を維持しさらに進化させる。
- (7) 奉仕・ボランティア活動をはじめ、地域清掃、地域祭りへの参加、地域と協力した防災対策などにより「地域に根ざし地域から信頼を得る学校」を目指す。
- (8) 職員の意識改革、業務改善をととしてサービス事故防止を徹底する。
- (9) 効率的な業務遂行に努め、勤務時間外在校時間の短縮を進める。
- (10) 職員間の適切なコミュニケーションを図り、円滑に業務が遂行できる風通しの良い職場環境を作る。